

中毒発生時の状況や防止策などの詳細情報

1. 人に対する事故及び被害の発生状況

原因	発生月	使用現場の区分※	中毒の内容		被害者情報		中毒発生時の状況	防止策
			症状	中毒の程度	年齢	被害者数		
マスク、メガネ、服装等の装備が不十分	令和4年5月	農業	悪心・嘔吐、水様便	軽症	40～59歳	1	・農作業中、農薬を吸入した。	・農薬の調製又は散布を行うときは、農薬用マスク、保護メガネ等の防護装備を適切に着用する。 ・作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするともに衣服を交換する。 ・農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを事前に、顔、手首など露出する場所に塗っておく。
	令和4年6月	農業	口唇、舌の先端、喉の痛み		60～79歳	1		
	令和4年7月	農業	眼の周りの湿疹、眼の痒み	軽症	20～39歳	1	・農作業中、農薬が口に入った。	
	令和4年11月	農業	眼の周りの湿疹、眼の痒み	軽症	60～79歳	1	・ゴーグルをつけて散布したが、眼に症状が出た。	
	令和4年11月	農業	咳嗽、痰	軽症	60～79歳	1	・農作業中、農薬を吸入した。	・作業着（長ズボン）の裾は、長靴の外に出す。 ・皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。 ・作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするともに衣服を交換する。
	令和4年9月	農業	両足首から下のかゆみ、かぶれ、水ぶくれ、患部の痛み、水ぶくれ破損箇所からの細菌感染による発熱	中軽症	20～39歳	1	・散布時に、農薬が長靴へ入り、作業後にエアで農薬を除去したが、水洗による農薬除去は作業から5時間後であった。	
	令和4年8月	農業	頭、背中、喉の痛み	軽症	成人	1	・農地での農薬使用後、隣接地の住民が体調不良	
	令和4年8月	農業	頭、背中、喉の痛み	軽症	成人	1	・農地での農薬使用後、隣接地の住民が体調不良	
ドリフト防止対策の未実施等による農薬のドリフトや流出	令和4年8月	農業	頭、背中、喉の痛み	軽症	成人	1	・農地での農薬使用後、隣接地の住民が体調不良	・飛散が少ないと考えられる剤型を選択したり、飛散低減ノズルを使用するなど、飛散防止対策を十分に行う。 ・農薬が飛散しないよう風向等に注意し、強風時の散布は控える。
	令和4年8月	農業	頭、背中、喉の痛み	軽症	成人	1	・農地での農薬使用後、隣接地の住民が体調不良	
被覆が不十分であった等、農薬使用後の作業管理の不良	令和4年4月	農業	眼の痛み、咳、嘔吐	軽症	0～19歳	2	・土壌くん蒸剤（クロルピクリン；劇物）の使用時に被覆を行わなかった。 ・農薬が揮発して近隣住民が体調不良	・住宅地等が風下になる場合には、土壌くん蒸剤の使用を控える。 ・住宅地等の周辺では高温期の処理を避ける。 ・土壌くん蒸剤を使用した際は直ちに被覆を完全に行う。 ・適正な材質や厚さの被覆資材を用いる。
	令和5年3月	農業	眼、喉の痛み、嘔吐・吐き気		40～59歳	2		
	令和5年3月	農業	眼、喉の痛み、嘔吐・吐き気	軽症	成人	12	・土壌くん蒸剤（クロルピクリン；劇物）の使用時に被覆を行わなかった。 ・農薬が揮発して近隣住民が体調不良	・住宅地等が風下になる場合には、土壌くん蒸剤の使用を控える。 ・住宅地等の周辺では高温期の処理を避ける。 ・土壌くん蒸剤を使用した際は直ちに被覆を完全に行う。 ・適正な材質や厚さの被覆資材を用いる。
	令和5年3月	農業	眼、喉の痛み、嘔吐・吐き気		成人	12		

原因	発生月	使用現場の区分※	中毒の内容		被害者情報		中毒発生時の状況	防止策
			症状	中毒の程度	年齢	被害者数		
保管管理不良等による誤飲誤食	令和4年5月	農業	喉の痛み、腹部不快感	軽症	40～59歳	1	・農薬を飲料と間違えて飲用	・農薬は、農薬保管庫の中に施錠して保管する等、安全な場所に保管する。 ・農薬は、使用後速やかに保管庫に戻す。 ・農薬は、飲食物と分けて保管する。 ・農薬は、居住空間のテーブル等に放置しない。 ・農薬やその希釈液、残渣等をペットボトルやガラス瓶などの飲料品の空容器等に移し替えない。 ・農薬やその希釈液、残渣等を飲料品の空容器等に誤って移し替えてしまうことのないよう、これらの空容器等は保管庫の近くに置かない。
	令和4年5月	その他	－	死亡	60～79歳	1	・飲酒後、農薬を間違えて飲用	
	令和5年3月	その他	嘔吐、気分不快	中軽症	80歳～	1	・認知症の方が、農薬を手で触り、口にしました。	
	令和5年3月	不明	咽頭痛	重症	80歳～	1	・農薬を飲料と間違えて飲用	
その他	令和4年7月	その他	眼の痛み	不明	60～79歳	1	・ガレージで保管されていた農薬の蓋が外れて、ガレージ内に漏洩。	・農薬は、農薬保管庫の中に施錠して保管する等、安全な場所に保管する。
原因不明	令和4年4月	その他	－	死亡	40～59歳	1	・農薬による中毒症状の可能性がある。	・農薬は、農薬保管庫の中に施錠して保管する等、安全な場所に保管する。 ・農薬は、使用後速やかに保管庫に戻す。 ・農薬は、飲食物と分けて保管する。 ・農薬は、居間空間のテーブル等に放置しない。 ・農薬やその希釈液、残渣等をペットボトルやガラス瓶などの飲料品の空容器等に移し替えない。 ・農薬やその希釈液、残渣等を飲料品の空容器等に誤って移し替えてしまうことのないよう、これらの空容器等は保管庫の近くに置かない。
	令和4年6月	その他	－	死亡	80歳～	1	・農薬による中毒症状の可能性がある。	
	令和4年11月	不明	気道閉塞	死亡	80歳～	1	・農薬による中毒症状の可能性がある。	
	令和4年12月	不明	意識レベル低下、血圧低下、酸素飽和度低下	重症	80歳～	1	・農薬による中毒症状の可能性がある。	
	令和5年2月	農業	嘔吐、気分不快	中軽症	60～79歳	1	・農薬使用後、症状が出たため、農薬による中毒症状の可能性がある。	・農薬の調製又は散布を行うときは、農薬用マスク、保護メガネ等の防護装備を適切に着用する。 ・作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするともに衣服を交換する。

※ 使用現場の区分とは、農業現場での使用を「農業」、それ以外を「その他」としています。

2. 農作物、家畜(蜜蜂を除く)及び生活環境動植物等に対する被害

被害対象	発生月	被害状況	被害発生時の状況	一般的な防止策
農作物	令和4年5月	たまねぎの変色	・牧草地の畦畔に除草剤を散布 ・風により隣接するほ場に飛散	・飛散が少ないと考えられる剤型を選択したり、飛散低減ノズルを使用するなど、飛散防止対策を十分に行う。 ・農薬が飛散しないよう風向等に注意し、強風時の散布は控える。
	令和4年5月	水稻の生育不良	・道路に除草剤を散布 ・強風の中、隣接する水田に飛散	
	令和4年6月	水稻の苗の立ち枯れ、生育不良	・施設園芸用ハウスの敷地境界に除草剤を散布 ・隣接する水田に飛散	
	令和4年7月	水稻の変色	・ほ場に除草剤を散布 ・風により隣接する水田に飛散	
	令和4年7月	かんしょの変色	・ほ場周辺に除草剤を、スプレイヤーで散布 ・スプレイヤーの圧力が強く、風により隣接するほ場に飛散	
	令和4年10月	小麦の変色	・ほ場に除草剤を、スプレイヤーで散布 ・風により近隣のほ場に飛散	
	令和4年5月	にんにく、たまねぎ、キャベツ、アスパラ菜の変色(白化)	・土壌くん蒸剤(クロルピクリン;劇物)の使用時に被覆を行わなかったため、農薬が隣接するほ場に拡散	・住宅地等が風下になる場合には、土壌くん蒸剤の使用を控える。 ・住宅地等の周辺では高温期の処理を避ける。 ・土壌くん蒸剤を使用した際は直ちに被覆を完全に行う。 ・適正な材質や厚さの被覆資材を用いる。
	令和4年5月	小松菜の変色	・土壌くん蒸剤(クロルピクリン;劇物)の使用時に被覆は行ったが、揮発した農薬が何らかの理由で漏洩し、隣接するほ場に拡散	
	令和4年6月	松の変色	・土壌くん蒸剤(クロルピクリン;劇物)の使用時に被覆は行ったが、揮発した農薬が何らかの理由で漏洩し、隣接するほ場に拡散	
	令和4年12月	たまねぎの生育不良	・土壌くん蒸剤(クロルピクリン;劇物)の使用時に被覆が一部不完全であり、揮発した農薬が低地にあるほ場に拡散した可能性	
家畜	令和4年7月	羊の斃死(一頭)	・無風の中、ほ場に無人ヘリコプターで農薬を散布 ・斃死した羊から、使用した農薬と同じ成分が検出された。被害と農薬の因果関係は不明だが、隣接する放牧地に飛散した可能性。	・飛散が少ないと考えられる剤型を選択したり、飛散低減ノズルを使用するなど、飛散防止対策を十分に行う。 ・農薬が飛散しないよう風向等に注意し、強風時の散布は控える。 ・農薬散布日時を周辺住民に十分周知する。 ・機体等メーカーが取扱説明書等に記載した散布方法を参考に散布を行う。

2. 農作物、家畜(蜜蜂を除く)及び生活環境動植物等に対する被害

被害対象	発生月	被害状況	被害発生時の状況	一般的な防止策
魚類	令和4年6月	魚類の斃死	・斃死魚から農薬の成分が検出されたことから、農薬が原因と考えられる。	・農薬が河川に飛散・流入しないように注意する。 ・防除器具等の劣化による散布液の漏洩がないよう、点検整備を行う。 ・農薬は計画的に購入・使用し、使い切るように努める。 ・使用残農薬や不要になった農薬は、廃棄物処理業者に処理を依頼するなど適正に処理する。
	令和4年8月	魚類の斃死	・河川水から農薬の成分が検出されたことから、農薬が原因と考えられる。	
	令和4年11月	魚類の斃死	・河川水及び斃死魚から農薬の成分が検出されたことから、農薬が原因と考えられる。	
	令和5年2月	魚類の斃死	・農薬の散布後、残液を側溝に流したことが原因と考えられる。	
	令和5年3月	魚類の斃死	・不要になった農薬を水路に廃棄したことが原因と考えられる。	